

「美空 1 1 秒 7、明日太 1 1 秒 8！」

「よっしゃ、またまた私の勝ちい！」

「マジかよっ、ちくしょーっ！」

叫びながら派手にぶっ倒れる明日太。  
これで私の 3 連勝、そりゃー悔しいっしょ。  
まあ、これが陸上部エースの余裕って奴っすよ。  
…イヤまあ、結構っつーかかなり本気でしたけどね？

「ふっふっ、私に勝とうなんて百年どころか 2 1 世紀早いんだよ、明日太」

「どんだけ差つけてんだよ！ たかが 0 , 1 秒だろ、次こそ勝ってやる！」

明日太はそうやって、またスタート地点に戻っていく。  
やれやれ、何度やっても同じなのに。  
熱いねー、まったく。  
しゃーない、もう一度コテンパンにしてあげましょうか、ふっふっふ。

「まだやる気～？ 私がかまわないけど、恥の上塗りはやめたほうがいいんじゃない？」

「何を！ 次に吠え面かくのはそっちだぜ！」

うわあ、自信满满だよこの子…どっからその自信が来るんだか。  
まあ、もう一度勝ってその自信を木っ端微塵にしてあげようかね！

「言ったね～、実力の差ってモンを教えてあげましょう…きゃあっ?!」

「美空?!」

あたたた…私としたことが…  
こんなところに石が落ちてるなんて、ついてないなあ、もう。

「アハハ、ちょっとドジっちゃった…あ痛っ！」

痛たたた、こりゃくじいちゃってるわ。  
ってことは私、不戦敗？  
うわあ、最悪…、まあしょーがないんだけどさあ。

「ゴメン明日太、ちょっと足くじいちゃったみたいだからさ、勝負はまた今度でお願いね」

「え？ 大丈夫かよ」

「だいじょぶだいじょぶ、心配ないって！ じゃ、ちょっと保健室行ってくるわ」

いや、ホントはあんまし大丈夫じゃないんだけどさ。  
明日太、ものすごい心配そうな顔してるんだもん。  
あんな顔されちゃー、大丈夫じゃないなんていえなくなっちゃうよ。

「待ってって！ 足、くじいてんだろ？ 俺がけしかけたようなもんだしな、おぶってってやるよ」

「へっ？」

ちょ、おんぶするって本気ですか明日太さん。  
このクラスのみんが注目している状況で、おんぶするって正気の沙汰じゃないっすよ明日太さん？！  
駄目駄目、絶対駄目だって！  
そんなことされるくらいならこのくじいた足で全力疾走させていただきますから勘弁してくださいよ明日太！

「いっ、いいよいいよそんなの！ 私ならもうピンピンしてるからそんな気い使ってくれなくても…」

「何遠慮してんだよ、らしくねえなあ…。ほら、よっと」

「きゃっ?! ちょちょちょ明日太、おおお降ろしてっばあ！」

「足くじいてる奴が何言ってんだよ、ほら行くぞ」

…完璧スルーですか、アンタ。  
ああ、視線が痛いよ…戻ってきたらきっと双子やらチア三人娘やらにからかわれるんだろうなあ。  
明日太っていい奴なんだけど、こういうところで無神経っつーかなんっつーか…  
もうちょっとその、乙女心って奴を考えてほしいもんだよねえ、いや私がいうとギャグにしか聞こえないけどさ。

「あのさ明日太」

「なんだよ？」

「どーして君はこう無神経なんですかね？」

「はあ？ 何がだよ、わけわかんねー」

「いや、だからあんなふうにくラスの大半が注目してる状況で何のてらいもなくこうやって私をおぶるってのはマズイ、とか一瞬でも思わなかったの？」

「だから何がマズイんだよ、何も問題ねえじゃん」

駄目だ、この人駄目だよ。  
言ってることは正しいけど世間体とか全力でぶっちぎっちゃうタイプだね。  
ま、頼りがいはあるけどさ。

「…美空、ごめんな」

「へっ？ いきなりどしたのさ明日太」

なんか変な声出ちゃったけど、仕方ないよね？  
だって、たった今私をおぶったことは何も問題ないって断言しちゃったようなもんなのに、何を謝るのさ、ってワケで。  
しかも何かむつかしい顔しちゃってるし。  
私、明日太に何かされたっけ…？

「いや、俺がけしかけたせいで足くじいちまってさ。お前陸上部なのに、無茶させて悪かったな、って思って」

……え？

まさか、そんなこと気にしてたの？  
あれって、私が足元の石に蹴躓いたのが原因で、明日太何も悪くないんですけど。  
もしかして私をおんぶするなんて言い出したのもそのせい？

「……ぷっ」

「な、なんだよ！ なんで笑うんだよお前！」

「だ、だって！ 明日太がそんなこと気にしてるなんて思わなかったんだもん！ あは、アハハハハ！！！」

「わ、笑うなよ馬鹿！ 落とすぞ！」

「アハハ、か、勘弁！ 勘弁して！」

アッハハハ、明日太ってば顔真っ赤だよ！  
ったくもう、かわいいなあ明日太は。  
ぶっきらぼうな振りしてるのに、どっか抜けてるっていうか、律儀っていうか。  
ま、おんぶの件は、これでチャラにしといてあげるよ明日太。  
私がからかわれたときのスケープゴートにできるからね。

「はあ～あ…可愛いね～明日太は」

「な、何言ってるんだよ！ ったく…」

あーあ、そっぽ向いちゃった。  
ま、からかうのはこれくらいにしといてあげますか。  
そんなことを考えながらもたれかかった明日太の背中、とっても大きくて、暖かった